

S-TEAM 教育推進事業 「STEAM」 推進プロジェクト
外部連携支援事業（学校活用型）実施報告書

学校名	北海道北見緑陵高等学校
実施日時	令和6年6月17日（月） 13:20～16:35
講師	（ 所 属 ） 北海道大学大学院地球環境科学研究院 （ 職 ・ 氏 名 ） 教授 山中 康裕
実施概要	<p>1 ねらい</p> <p>(1) 生徒が立てた探究活動の見直しに対し、講師から助言を得ることで、自らが立てた問いや課題を見直し、その質や精度を高める。</p> <p>(2) 教員が、探究活動における教員の役割や、外部の教育資源の活用事例を学ぶことで、生徒の主体性を生かした学習と、教師の適切な指導との調和が取れた探究活動を実現する。</p> <p>2 日程</p> <p>13:20～14:10 3年次「総合的な探究の時間」</p> <p>14:20～15:10 2年次「総合的な探究の時間」</p> <p>15:35～16:35 校内研修「総合的な探究の時間における教育の役割及び外部との連携」</p> <p>3 講義、実習等の概要</p> <p>(1) 3年次「総合的な探究の時間」 2年次の探究の成果と課題を踏まえ、今年度新たに設定する探究テーマについて、グループごとに講師から助言をもらう。</p> <p>(2) 2年次「総合的な探究の時間」 各グループが自ら設定した探究テーマを踏まえ、今後の進め方をまとめた計画に対し、講師から助言をもらい、問いや課題の質を向上させるとともに、探究のプロセスの工夫・改善を図る。</p> <p>(3) 校内研修 生徒の取組状況に応じた教師の適切な指導や外部人材の活用の事例等について講演を行う。</p> <p>4 成果</p> <p>3年次生は、自分たちが取り上げようとしているテーマが社会問題としてのみならず、身近な問題となっているかという観点がないと探究ではなく、単なる調べ学習になってしまうとアドバイスされ、自分はどうしたいのか、どうありたいのかということを考えられるように、改めてそれぞれのテーマを見直す機会とすることができた。</p>

2年次生は、自分たちの設定しようとするテーマ一つ一つにコメントをいただけたことに感謝するとともに、きちんとしたテーマを立てることの重要性や、探究活動する際は専門的知識を有する方の意見を聞くことも有効であることを示唆され、今後の実践計画に取り入れようとしていた。

その後行われた教員研修会では、まず先生方が楽しんで取り組むことが大切と教えていただいた上で、道内各校の実践例が紹介された。

探究活動を指導する立場の教員は、生徒の活動に明確な目的や内容を求めてそれを評価してしまいがちになるが、振り返りによる対話を通じて、生徒が自分たちの意見を少しずつ深められるような言葉かけをするなどコーチングスキルの重要性を学ぶことができた。

